

高等学校における 特別支援教育ガイドブック

～実践研究編～



平成27年3月
長崎県教育委員会

刊行にあたって

平成19年4月に文部科学省初等中等教育局長通知「特別支援教育の推進について」が出され、高等学校を含む各学校においては、校内委員会の設置、実態把握の実施、特別支援教育コーディネーターの指名、特別支援教育支援員の配置、個別の指導計画や個別の教育支援計画の作成・活用など特別支援教育の体制整備が進められてきました。

平成21年3月の文部科学省の調査では、高等学校に進学する発達障害等困難な生徒の割合は全体で約2.2%となっており、学科別に見ると、普通科が約2.0%、専門学科が約2.6%、総合学科が約3.6%という割合が示されています。また、本県が平成21年9月に県内全ての高等学校（私立を含む）を対象とした調査では、特別な教育的支援が必要と思われる生徒の割合は全体で1.74%という結果でした。

小・中学校においては、特別支援学級や通級指導教室が必要に応じて設置され、個々の教育的ニーズに応じた支援が受けられる体制が整っていますが、高等学校においては、特別な教育的支援が必要な生徒を含め、全ての生徒が同じ学級の中で教育を受けている現状から、高等学校における特別支援教育の充実が大きな課題となっていました。

そこで、県教育委員会においては、平成23年10月に策定した「長崎県特別支援教育推進基本計画」の中で、高等学校における特別支援教育の充実について、「発達障害を含む特別な教育的支援を必要とする生徒に対応するために、実践的研究等を通して一人一人の教育的ニーズに応じた指導・支援の充実を図ること」とし、平成24年度からの3年間、県立高等学校3校で実践研究に取り組んでまいりました。そして、3校の研究成果を全ての高等学校に普及するために、その研究成果をまとめた本ガイドブック（実践研究編）を作成し、平成27年度から28年度の2年間で全県立高等学校において、伝達研修を実施することとしています。

本ガイドブック（実践研究編）は、学びやすい学校づくりに向けた3校の特色を生かした組織的な取組を「実態把握」「学習指導」「生徒指導」「進路指導」の4項目に整理し、まとめたものです。

ぜひ各学校で積極的に活用していただき、一人一人の障害の状態や教育的ニーズに応じた指導・支援の充実につなげるとともに、学びやすい学校づくりに向けた、基礎的な環境づくりが、各学校に共通する標準的な取組として多くの学校にも浸透していくことを期待しています。

目 次

| | |
|--------------------------|---|
| 刊行にあたって ガイドブックの特徴について | 1 |
|--------------------------|---|

I章 実態把握

| | |
|---------------------|---|
| 1 生徒の特性を把握し支援に生かす実践 | 4 |
|---------------------|---|

II章 学習指導

| | |
|-----------------------------------|----|
| 1 授業内容を分かりやすくする実践 | |
| (1) 板書の工夫 | 8 |
| (2) 主体的な学びにつなげるための工夫 | 10 |
| (3) 学習プリントの工夫 | 14 |
| 2 基礎学力の定着に向けた実践 | 16 |
| 3 生徒が本来の力を発揮できるように 考査問題を工夫した実践 | 18 |
| 4 特別支援教育の視点を生かした授業改善の実践 | 20 |

III章 生徒指導

| | |
|-------------------------|----|
| 1 学校生活を円滑にするための実践 | |
| (1) 学習規律や校則を分かりやすくする工夫 | 22 |
| (2) 生活環境や学習環境を整えやすくする工夫 | 26 |
| 2 生徒同士の良好な対人関係を育むための実践 | 28 |

IV章 進路指導

| | |
|--|----|
| 1 卒業後を見通したコミュニケーション能力の向上や自己理解を深めるための実践 | 30 |
| 2 進路支援に向けた実践 | 32 |

| | |
|------|----|
| あとがき | 34 |
| 用語解説 | 35 |
| 巻末資料 | 38 |
| 刊行物 | 78 |
| 参考文献 | 80 |

ガイドブックの特徴について

これまでに、長崎県教育委員会では、2編の「高等学校における特別支援教育ガイドブック」を刊行しました。

3編目の本ガイドブックは、一人一人の教育的ニーズに応じた学びやすい学校づくりを目指した実践研究校3校の取組をまとめたものです。

ここでは、これまでのガイドブックと本ガイドブックの特徴を御紹介します。

【これまでのガイドブックの特徴】

「高等学校における特別支援教育ガイドブック～基礎編～」(平成22年3月)

高等学校の先生方に特別支援教育に関する基本的な知識を得てもらうことを目的としています。障害特性や関係機関との連携等、特別支援教育に関する基本的な内容をまとめています。

「高等学校における特別支援教育ガイドブック～実践編～」(平成24年3月)

県内高等学校で取り組まれた実践を紹介し、学級経営や教科指導に役立ててもらうことを目的としています。先進的に取り組んでこられた先生方の実践を多く掲載しています。

【本ガイドブックの特徴】

本ガイドブックは、実践研究校3校の実践を「実態把握」「学習指導」「生徒指導」「進路指導」の4つに整理しました。各実践は、「目的」「実践」「アンケート結果」「校内で組織的に取り組むために留意したこと」「関連する資料」の項目に整理して示しています。これらの実践の成果を県内全ての高等学校に浸透させ、各学校において特別支援教育に組織的に取り組んでいただくことを目的としています。

特に、「アンケート結果」の欄には、実践の効果を理解してもらうために、取組に対する生徒や教職員の感想を記載しています。感想の内容は、生徒がどのようなことを分かりやすいと感じたのか、教職員が生徒のどのような行動から、その効果を感じとったのかを具体的に示しています。

また、「校内で組織的に取り組むために留意したこと」の欄では、各高等学校が実践研究校の取組を組織的に実践するために、参考にさせていただきたいことを記載しました。

その他、本文中の専門用語は「(※1)」をつけています。その用語の解説をP35の「用語解説」に示しています。

各項目の詳しい説明は、次ページに記載します。

タイトル「実践名」

サブタイトル

Ⅱ 1 〇〇〇〇する実践 (2) △△△につなげる工夫

目的

上記の「実践」について、生徒の実態とともに目的を記載しています。

実践

〇〇〇〇するための実践

- いつ：
- だれに：
- 何をした

-
-

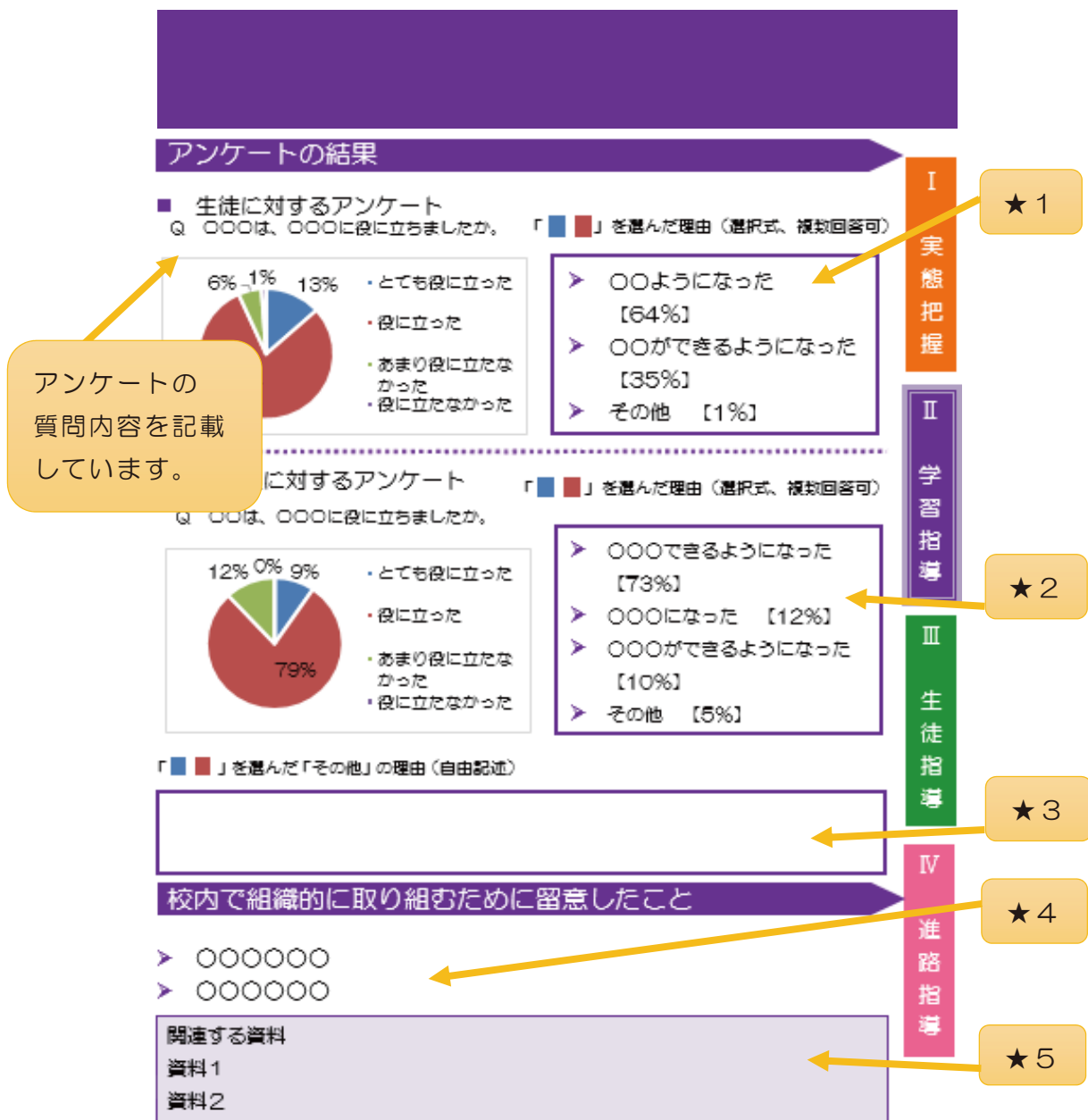
「目的」を達成するために、具体的に取り組んだ実践タイトルを記載しています。

〇〇〇〇するための実践

- いつ：
- だれに：
- 何をした

- ①
- ②
- ③

実践内容について、時系列に述べているものは、「①」「②」と番号で示して記載しています。



アンケートの質問内容を記載しています。

- ★ 1 : 「生徒に対するアンケート」の回答で、肯定的な回答（「分かりやすい」「してほしい」「役立つ」）を選んだ理由について、選ばれた内容（複数選択可）を多い順に示しています。
- ★ 2 : 「教職員に対するアンケート」の回答で、肯定的な回答（「役に立った」「感じとれた」）を選んだ理由について、選ばれた内容（複数選択可）を多い順に示しています。
- ★ 3 : 「教職員に対するアンケート」の回答で、肯定的な回答（「役に立った」「感じとれた」）を選んだ理由について、自由記述欄に書かれた内容を抜粋して記載しています。
- ★ 4 : 校内で組織的に取り組むために留意したことを記載しています。
- ★ 5 : 実践に関連する資料を記載している。「巻末資料」に詳しい資料を掲載しています。

I 章 実態把握

I

1 生徒の特性を把握し支援に生かす実践

目的

生徒たちの中には、様々な認知特性（※1）や障害特性により、「板書を書き写していると先生の話聞き取ることが難しい」「周りの人が困惑するようなことも、配慮しないで言うってしまう」などの学習面や対人関係面で困っている生徒がいます。そこで、生徒が困っていることを把握し、教職員が共通理解して必要な支援を継続して行うようにするために、チェックリスト等を活用して実態把握を行ったり、個別の指導計画（※2）や個別の教育支援計画（※3）を作成したりしました。

実践

新入生が高校生活に円滑に移行できるようにするための実践

- いつ：3月下旬～6月
- だれに：気になる生徒が在籍する中学校
- 何をした
 - ① 3月下旬、中学校より送付された入学予定者に関する資料の中から、3年学年団に所属する教職員が、気になる生徒の情報を把握し、全教職員で共有しました。
 - ② 気になる生徒が在籍する中学校を訪問し、情報を収集しました。
 - ③ 中学校から得た情報を職員会議で取り上げ、全教職員で共有しました。
 - ④ 入学後、気になる生徒の様子観察を行ったり、面談を行ったりして困っていることを把握しました。
 - ⑤ 緊急性が高い場合は、5月下旬に気になる生徒の出身中学校を訪問し、今後の支援を目的とした情報収集を行い、職員会議で報告しました。
 - ⑥ 関係者や該当学年の教職員が会議を行い、今後の支援方法について検討するとともに、個別の教育支援計画（資料4、資料5）を作成しました。

生徒のつまずきの状況を把握し継続した支援を行うための実践

- いつ：随時
- だれに：全校生徒、支援を必要とする生徒
- 何をした

- ① 「学習面全般にわたり困難を示す生徒への対応フローチャート」(資料1)の流れに沿い、全校生徒を対象に「県チェックリスト：支援が必要な生徒を把握するためのチェックリスト」(資料2)を活用し、各担任がチェックをしました。

県チェックリスト：支援が必要な生徒を把握するためのチェックリスト(資料2)

| 【学習面】「聞く」「話す」「読む」「計算する」「推測する」 | | | |
|-------------------------------|---|----|----------------------|
| 領域 | 項目 | 点数 | 小計 |
| 聞く | 1 聞き違いがある。(例「知った」と「言った」を聞き違える。等) | | |
| | 2 聞きもらしがある。 | | |
| | 3 個別に指示すると聞き取れるが、集団場面では難しい。 | | |
| | 4 指示の理解が難しい。 | | |
| | 5 話し合いが難しい。 (話し合いの流れが理解できず、ついていけない) | | |
| 話す | 6 適切な速さで話すことが難しい (たどたどしく話す。とても早口である。等) | | *小計が 4点以上 は要支援 |
| | 7 ことばにつまったりする。 | | |

II 学習指導

III 生徒指導

- ② ①のチェックリストで一定の基準を超えた生徒に対して、「授業中チェックシート」(資料3)と観点別チェックシート(資料4)を活用し、教科担当者がチェックをしました。

授業中チェックシート(資料3)

| チェック項目 (該当欄に○) | | なし | 時々ある | よくある |
|----------------|--|----|------|------|
| 1 | 机の上や席のまわりが散らかっている。 | | | |
| 2 | 姿勢の保持が難しい。 (横や後ろを向いたり、独特な姿勢をしていることがある。) | | | |
| 3 | 必要もないのに席を立ったり、立ち歩いたりする。 | | | |
| 4 | 席に座っていても落ち着きのない行動をする。 | | | |
| 5 | 集中して課題に取り組むことが難しい。 | | | |

IV 進路指導

観点別チェックシート（資料4）

| Ⅱ 読む・書く | | Ⅲ 計算する・推論する <small>（算学・情報科以外は詳述しなくても可。）</small> | |
|---------|--|---|--|
| 1 | 形の似た文字を読みまちがえることが多い。 （「ぬ」と「わ」、「め」と「ぬ」など） | 1 | 日常生活に必要な程度の長さや重さ、時間、金額などの概念ができていない。（10分間の予測や、1000円で買える物の予測が極端にずれるなど） |
| 2 | 単語を一語のまとまりとして読めない。拗音や長音を 一音として読めない。（「ちようちよう」→「ち・よ・ う・ち・よ・う」など） | 2 | 九九が記憶できない、具体的な計算処理に使えない。 |

- ③ ①と②の結果を踏まえ、本人面談、保護者面談を実施しました。保護者の了解が得られた場合には、個別の指導計画（※2）と個別の教育支援計画（※3）（資料5、資料6）を作成し、了解が得られない場合には、個別の指導計画（※2）を作成し、情報の共有や継続した支援ができるようにしました。

教職員が気になる生徒の情報を共有するための実践

- いつ：日々の情報交換、職員会議
- だれに：全職員
- 何をした
 - ① 担任や教科担当者から日々の情報を学年主任へ報告しました。
 - ② 学年主任が収集した日々の情報を教育相談部主任へ報告しました。
 - ③ 教育相談部主任が以下の資料（表1）をもとに、職員会議で月間報告を行いました。

| 月間報告 | | 平成26年 ○月○日 | | | |
|----------|----|----------------|----|---------------|--|
| 秘 | | 教育相談部 | | | |
| 生徒情報月間報告 | | | | | |
| ○年○組 | 4月 | | 5月 | | |
| | 項目 | 内容 | 項目 | 内容 | |
| ○崎 ○郎 | 特支 | 授業中 落ち着きがない | | | |
| △田 ○二 | | | 生指 | 遅刻が多い | |
| □山 ○子 | 保健 | アトピー性皮膚炎 | | | |
| ○村 ○美 | | | 相談 | 家族関係で悩み 有り | |

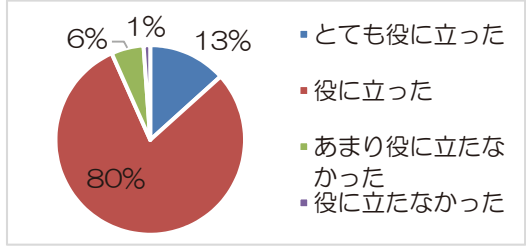
※保健：健康生活上の気になる点
 特支（特別支援教育）：特別支援教育上の気になる点
 相談（教育相談）：教育相談的な気になる点
 生指（生活指導）：生活指導上の気になる点

（表1）

アンケートの結果

■ 教職員に対するアンケート

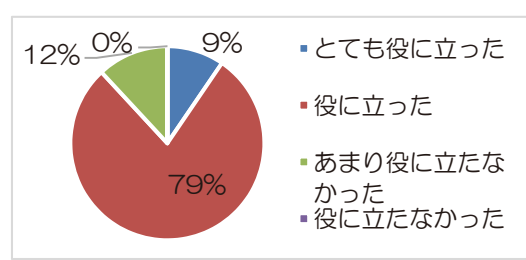
Q チェックシートやアンケートによって生徒の実態を把握することは、先生方の授業づくりや生徒指導、進路指導に役に立ちましたか。



「■ ■」を選んだ理由(選択式、複数回答可)

- 生徒の実態に応じた指導の工夫ができるようになった 【64%】
- 教職員間で生徒の情報を共有し、一貫した指導ができるようになった 【35%】
- その他 【1%】

Q 個別の教育支援計画を作成したことは、生徒への指導・支援に役に立ちましたか。



「■ ■」を選んだ理由(選択式、複数回答可)

- 生徒の実態に応じた指導の工夫ができるようになった 【73%】
- 長期的な視点をもって、指導・支援ができるようになった 【12%】
関係機関と連携を図りながら指導・支援ができるようになった 【10%】
- その他 【5%】

「■ ■」を選んだ「その他」の理由(自由記述)

- 保護者の意見を反映できるように努力できた。
- 変化が少なくても、生徒の実態に応じて、待つ、見守るなどの支援を続けることが不安なくできるようになった。

校内で組織的に取り組むために留意したこと

- 全職員が統一的に連携して取り組めるように、指導・支援の全体像を図式化したフローチャート(資料1)を作成し、「誰が」、「どの時点で」、「何をする」かを分かりやすくしたこと。

関連する資料

- 資料1 学習面全般にわたり困難を示す生徒への対応フローチャート
- 資料2 県チェックリスト：支援が必要な生徒を把握するためのチェックリスト
- 資料3 授業中チェックシート
- 資料4 観点別チェックシート
- 資料5 個別の指導計画・個別の教育支援計画 「記入要領」
- 資料6 個別の指導計画・個別の教育支援計画 「様式」及び「記入例」

II 章 學習指導

Ⅱ

1 授業内容をわかりやすくする実践

(1) 板書の工夫

目的

生徒たちの中には、視知覚（※4）、選択的注意（※5）の弱さにより、板書で大切なポイントがどこに書いてあるか、授業の流れがどのようになっているかなどを捉えることが難しい生徒がいます。全ての生徒にとって見やすく、分かりやすい板書にするために、文字の大きさや色、レイアウトなどの工夫をしました。

実践

板書を見やすくするための実践

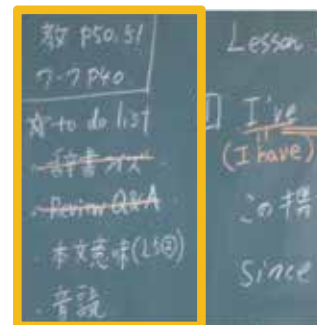
- いつ：全授業
- だれに：全校生徒
- 何をした
 - 黒板に文字サイズの見本を貼り（写真1）、板書の文字を見本より大きく書くようにしました。
 - 授業の大切なポイントには蛍光色のチョークを用いるようにしました。



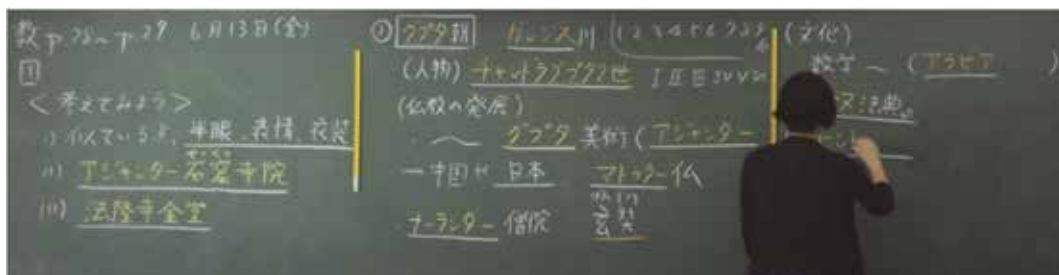
(写真1)

授業内容を分かりやすくするための実践

- いつ：全授業
- だれに：全校生徒
- 何をした
 - 黒板に教科書のページ（写真2、写真3）や、本時の目標、大まかな授業内容を書くことで、授業の導入として、これから何を学習するのかを分かりやすくしました。
 - 黄色のマグネットバーで区切り、板書のレイアウトを整理することで、授業全体の内容を見やすく、分かりやすくしました。（写真3）



(写真2)

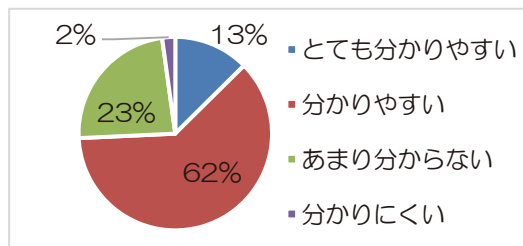


(写真3)

アンケートの結果

■ 生徒に対するアンケート

- Q 授業中の板書は、「文字の大きさ」や「色」が見やすく、「板書の量」も多すぎず、「大切なことがどこに書いてあるか」分かりやすいですか。



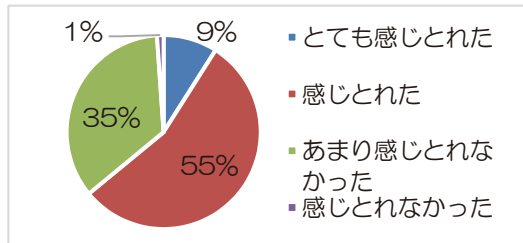
「■ ■」を選んだ理由(選択式、複数回答可)

- 一つ一つの文字の大きさがちょうど良いから【35%】
- 文字の色が見やすいから【25%】
- ノートやプリントに書き写しやすい板書量だから【20%】
- 授業の大事なところが分かりやすいから【19%】
- その他【1%】

I 実態把握

■ 教職員に対するアンケート

- Q 学校で統一したルールに則って、板書を工夫したことで、生徒の授業への取り組み方が改善されていると感じとれましたか。



「■ ■」を選んだ理由(選択式、複数回答可)

- 生徒が、板書に注目するようになった【39%】
- 生徒が、ノートを整理して書くようになった【36%】
- 生徒が、ノートやプリントに速く書き写すようになった【17%】
- その他【8%】

Ⅲ 生徒指導

「■ ■」を選んだ「その他」の理由(自由記述)

- 生徒の立場に立って考えたルール(例えば、蛍光チョークを効果的に使うこと)が、生徒にとっても「分かりやすい」と受け入れられていた。
- 本時の流れを提示したことで、生徒たちが授業への見通しをもち、取り組むべきことができ、分かりやすいようだった。

Ⅳ 進路指導

校内で組織的に取り組むために留意したこと

- 文字の大きさや、使用するチョークの色等について共通のルールを決め全教職員へ資料を配付したこと。(資料7)
- 「分かりやすい授業」の教職員相互チェックシートを作成し、定期的(年4回)に教職員でチェックするようにしたこと。(資料8)

関連する資料

資料7 「分かりやすい授業」のために

資料8 「分かりやすい授業」の教職員相互チェックシート

Ⅱ

1 授業内容をわかりやすくする実践

(2) 主体的な学びにつなげるための工夫

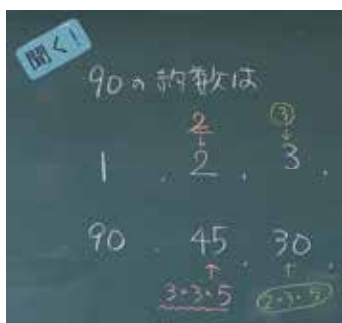
目的

生徒たちの中には、様々な認知特性（※1）により、教師の指示や活動の手順が分からず主体的に学習を進めることが難しい生徒がいます。そのような生徒を含む、全ての生徒が教師の指示や活動の手順を理解できるように、生徒が視知覚（※4）や聴知覚（※6）を有効に活用できるような支援を行いました。

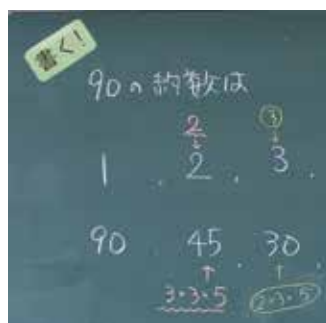
実践

説明や指示の内容を分かりやすくするための実践

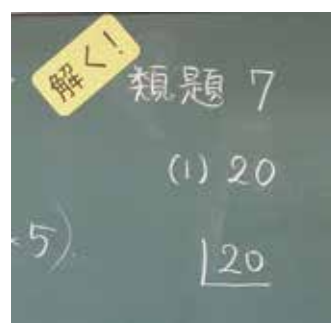
- 指示の出し方の共通理解
 - いつ：全授業
 - だれに：全校生徒
 - 何をした
 - 指示を出す前に生徒の方を向き、必ず教師に注目させるようにしました。
 - 「何をするか」「何をを使うか」など対象となるものを明確に伝えるようにしました。
 - 予定時間や次の活動など、見通しが持てるように伝えました。
- 視知覚を活用できる指示の出し方の工夫
 - いつ：全授業
 - だれに：全校生徒
 - 何をした
 - 「聞く」「書く」「解く」など、授業の中で多く出される指示について、マグネットカードを作り、視覚的に分かりやすく伝えるようにしました。
 - マグネットカードを板書に合わせて提示し、板書の内容がどのような活動のために書かれているのかを分かりやすくしました。（写真4～6）



(写真4)



(写真5)



(写真6)

主体的に生徒が学習を進めるための実践

- いつ：全授業
- だれに：全校生徒
- 何をした
 - 英単語の覚え方等、視知覚や聴知覚など多くの感覚を生かして覚えることができるようにしました。(資料9)
 - 教科書の重要な箇所への線の引き方、ノートのまとめ方など、自分で学習を進めるための方法を伝えました。(資料9)

課題や提出物を把握するための実践

- いつ：随時
- だれに：全校生徒
- 何をした
 - 授業の課題や学級の提出物の内容や締切を一覧にすることで、「何の教科等の」「何を」「いつまでに」提出すればよいか把握しやすくしました。(写真7)

| 教科等 | 内 容 | 締 切 |
|-----|-------------|---------|
| | | |
| 学級 | 就職模試代金(振込) | 5/16 |
| 数工演 | 復習課題 | 5/20(金) |
| 英語 | 情報模試(10/30) | 6/25 |

(写真7)

教科書を読みやすくするための実践

- いつ：全授業
- だれに：全校生徒
- 何をした
 - 不透明の白いアクリル板（写真8）を準備し、希望者に貸し出すようにしました。
 - 教科書など、長い文章を読むことが苦手な生徒には、アクリル板で先の文章を隠すようにして、今、読んでいるところが分かりやすいようにしました。



（写真8）

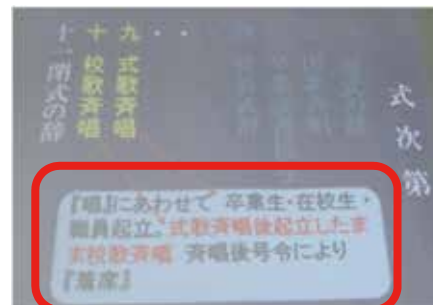
説明の内容を分かりやすくするための実践

- 動きを伴う示範を分かりやすくする工夫
 - いつ：全授業
 - だれに：全校生徒
 - 何をした
 - 動きを伴う活動において、示範の重要な動きと手元の動きが同じ向きになるように、動画を用いて伝えることで分かりやすくしました。（写真9）



（写真9）

- 所作のポイントを伝える工夫
 - いつ：卒業式
 - だれに：全校生徒
 - 何をした
 - 式典の流れを、プロジェクターを用いて視覚的に伝えました。
 - 起立や礼のタイミング等、プロジェクターを用いて視覚的に伝えました。（写真10）

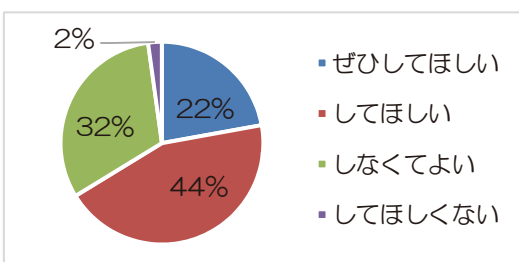


（写真10）

アンケートの結果

■ 生徒に対するアンケート

Q 授業中、「今日の授業のめあて」「授業の流れ・活動の手順」を示したり、「読む」「書く」「聞く」の時間を分けたりしていますが、これからもしてほしいですか。



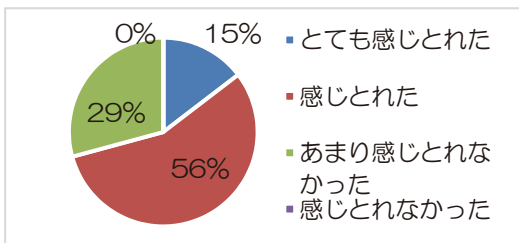
「■ ■」を選んだ理由(選択式、複数回答可)

- 授業で何をすれば良いかが分かり安心できるから【33%】
- 授業の流れ・手順が分かりやすいから【32%】
- 「読む」「書く」「聞く」の時間が分けてあり、一つのことに集中できるから【23%】
- 何をするか忘れても、自分で確認ができるから【12%】

I 実態把握

■ 教職員に対するアンケート

Q 授業の流れや活動の手順を示すことや、「読む」「書く」「聞く」の時間を分けることで、生徒の授業や活動への取り組み方が改善されていると感じとれましたか。



「■ ■」を選んだ理由(選択式、複数回答可)

- 生徒が、授業や活動に集中して取り組むようになった【63%】
- 生徒が、主体的に取り組む場面が増えた【30%】
- その他【7%】

III 生徒指導

「■ ■」を選んだ「その他」の理由(自由記述)

- 生徒が毎時の流れを把握できる事で、次に何をするのか理解しながら学習できるようになった。
- 「次に何をしますか」と生徒から質問されることが少なくなった。
- 「注目させてから話す」という意識を持つことが増えた。

IV 進路指導

校内で組織的に取り組むために留意したこと

- 指示の出し方など支援の方法について示した資料を全教職員に配付することで共通理解を図ったこと。(資料7、10)
- 「分かりやすい授業」の教職員相互チェックシートを作成して、定期的(年4回)に自己チェックしたり、相互チェックしたりしたこと。(資料8)

関連する資料

- 資料 7 「分かりやすい授業」のために
- 資料 8 「分かりやすい授業」の教職員相互チェックシート
- 資料 9 支援が必要な生徒に対する「学びのスキル」指導例
- 資料 10 支援が必要な生徒に対する「指示の仕方」(例)

Ⅱ

1 授業内容をわかりやすくする実践

(3) 学習プリントの工夫

目的

生徒たちの中には、見た情報を正確に記憶したり、記憶したことを書いたりすることが苦手なために、板書をノートに書き写すことに時間がかかる生徒がいます。そこで、学習プリントの書体や文字の大きさを統一したり、板書と同じ内容を学習プリントにしたりするなど、学習プリントの作成要領を教職員間で統一しました。

実践

学習プリントを見やすく保管しやすくするための実践

- いつ：全授業
- だれに：全校生徒
- 何をした
 - 生徒が保管しやすいように、学習プリントの用紙サイズや印刷の仕方、配付後の取り扱いなどを全ての授業で統一しました。(資料7)
 - 学習プリントを見やすいように、書体や文字の大きさを全ての授業でそろえました。(資料7)

学習プリントに記入しやすくするための実践

- いつ：全授業
- だれに：全校生徒
- 何をした
 - プリントのどこに何を書くかについて、板書と同じ内容の学習プリントを作成しました。(写真11)
 - 生徒の記入量を減らし、重要なポイントのみを記入させるようにしました。(写真12)



(写真11)

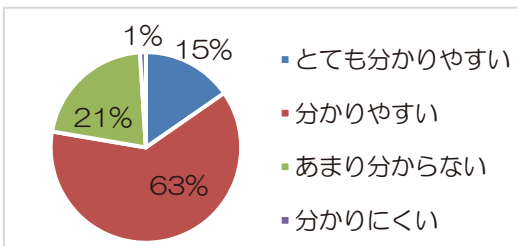


(写真12)

アンケートの結果

■ 生徒に対するアンケート

Q 授業で使うプリントの文字の大きさや書体、図の配置、記入欄などは分かりやすいですか。



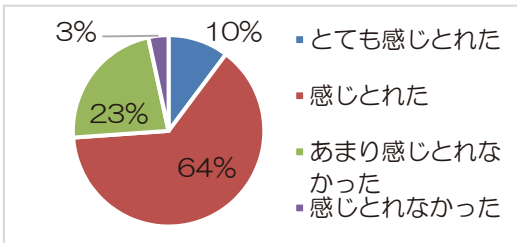
「■ ■」を選んだ理由(選択式、複数回答可)

- どこに何を書くのかが分かりやすいから【33%】
- 一つ一つの文字の大きさや書体が見やすいから【30%】
- 復習がしやすいから【21%】
- 黒板と同じ図などが使われているから【15%】
- その他【1%】

I 実態把握

■ 教職員に対するアンケート

Q 文字の大きさや行間、記入箇所の配置等学習プリントの体裁を整えることや板書と同じプリントを使うことで、生徒の授業への取り組み方が改善されていると感じとれましたか。



「■ ■」を選んだ理由(選択式、複数回答可)

- 生徒が、進んでプリントに記入するようになった【55%】
- 生徒が、板書を書き写す時間が短くなり、授業中の話を聞くようになった【35%】
- その他【10%】

III 生徒指導

「■ ■」を選んだ「その他」の理由(自由記述)

- ノートをとらなかつた生徒が、ノートを書くようになった。
- 板書の写し間違いなどが少なくなった。
- 生徒がプリントの整理ができるようになった。
- 「何を書けばよいのか」という生徒からの質問が減った。

IV 進路指導

校内で組織的に取り組むために留意したこと

- 学習プリントの文字の大きさやレイアウトについて、職員研修を行い、共通理解を図ったこと。(資料7)
- 「分かりやすい授業」の教職員相互チェックシートを作成し、定期的(年4回)にチェックするようにしたこと。(資料8)

関連する資料

資料7 「分かりやすい授業」のために

資料8 「分かりやすい授業」の教職員相互チェックシート

Ⅱ

2 基礎学力の定着に向けた実践

目的

生徒たちの中には、中学校までの学習内容が十分に身に付いていないことから、高等学校の学習に困難を示す生徒がいます。全ての生徒が学ぶ意欲を高め、授業内容を理解できるようにするために、高等学校の学習に必要な基礎・基本を習得させるための取組を行いました。

実践

「学びなおしの科目」を設定した実践

- いつ：選択科目（現代文 A 基礎・ベーシック数学）として週に 1 時間
- だれに：1 年生
- 何をした
 - 中学校で学んだ内容を中心に取り組みました。（資料 1 1、資料 1 2）
 - 授業は、1 コマを前・後半 25 分ずつに分け、「前時の復習→本時のテーマ（全体説明）→問題演習（必要に応じて個別指導）→解答・解説・答え合せの流れ」で行いました。
 - 単元（授業内容）ごとに、確認テストを実施し、学習内容の定着度の確認、授業の分析・改善を行いました。

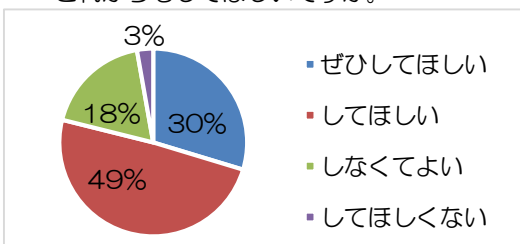
朝の時間に取り組んだ実践

- いつ：週に 2 日（火、木）、朝のホームルーム前に 10 分間程度
- だれに：全校生徒
- 何をした
 - 漢字の書き取りや計算などの基礎的な学力の定着と、「速さ」「正確さ」などの処理能力を向上させるために、漢字と計算問題（5 題）に取り組みせました。（資料 1 3）
 - 生徒自身が答え合わせ及び訂正をし、各学級の担当生徒が回収後、点数を入力し、担任に提出させました。
 - 漢字の書き取りは、2 回連続で同一問題を出題、計算問題は 2 回連続で類似の問題を出題し、繰り返しによる学習で基礎学力の定着を図るようにしました。
 - 漢字は学年ごとに異なる問題、計算は全学年統一問題で実施しました。

アンケートの結果

■ 生徒に対するアンケート

Q 中学校の学習を復習する時間がありますが、これからしてほしいですか。



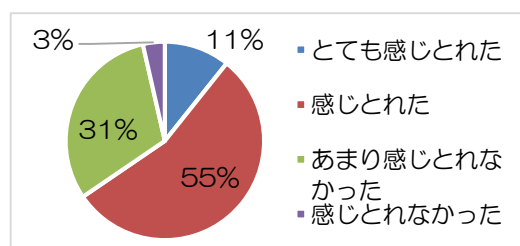
「■ ■」を選んだ理由(選択式、複数回答可)

- 高校の勉強が分かりやすくなるから 【29%】
- 今まで分からなかったことが分かるようになるから 【54%】
- 勉強に自信がもてるから 【15%】
- その他 【2%】

I
実態把握

■ 教職員に対するアンケート

Q 学習の基礎・基本の定着を図る時間を設定したことで、生徒の学習への取り組み方が改善されていると感じとれましたか。



「■ ■」を選んだ理由(選択式、複数回答可)

- 生徒同士の教え合う姿が見られるようになった 【33%】
- 生徒が、分からないところを質問するようになった 【29%】
- 生徒が、積極的に力を付けようとする姿が見られるようになった 【24%】
- 生徒が、他の授業にも集中できるようになった 【6%】
- その他 【8%】

II
学習指導

「■ ■」を選んだ「その他」の理由(自由記述)

- 学びなおしの意義を生徒が強く感じている。
- 朝ドリルの漢字、計算で満点を取ろうと準備する姿が見られるようになった。
- 「テストで何点とれた」という喜びの声が聞けるようになった。

III
生徒指導

IV
進路指導

校内で組織的に取り組むために留意したこと

- 「学びなおし検討委員会(現「学びなおし推進会議」)」を組織し、学校全体の問題として検討したこと。
- 「朝ドリル」については、1・2学期は学期ごとに、3学期は年間の成績で優秀な生徒や学級を表彰し、意欲の向上を図ったこと。

関連する資料

- 資料1 1 学びなおし年間指導計画(数学)
- 資料1 2 学びなおし学習内容例(数学)
- 資料1 3 朝ドリル問題

Ⅱ

3 生徒が本来の力を発揮できるように 考查問題を工夫した実践

目的

生徒たちの中には、視知覚（※4）や選択的注意（※5）等、様々な認知特性や障害特性があるために、考查時に本来の力を発揮できない生徒がいます。そこで、全ての生徒が本来の力を発揮できるよう配慮した考查問題を作成し、学力の定着状況を的確に把握できるようにしました。

実践

考查問題を見やすくするための実践

- 書式を統一した工夫
 - いつ：考查時
 - だれに：全校生徒
 - 何をした
 - 考查問題の書式について統一事項を定め、各教科・科目担当で考查問題を作成しました。（資料14）

考查問題一部抜粋（資料14）

【2】英文を読んで、下の問いに答えなさい。

Small children stand on the beach. At a sign from a staff member, **(A) they** release **(B) the little creatures in their hands** - baby green turtles, about 20 centimetres long.

Some of the children shout, "Come back again when you're grown up!"

The little turtles get to the sea, swim in it for a minute and then disappear.

(C) It takes place several times every year between January and March at **(D) Ogasawara Marine Center on Chichijima.**

問1 (A)の they、(B)の the little creatures in their hands が表すものを、本文中から抜き出さない。ただし、(A)は2語、(B)は3語で抜き出すこと。

問2 (C)の This が表す内容を、日本語で書きなさい。

問3 下線部(D)についての説明文の 内に適当な日本語を補いなさい。イとウのみ数字で答えること。

『Ogasawara Marine Centerでは毎年1ア回(イ月からウ月の間にエが行われる。オからの会場でカがエを行う。カの中には「キたら、また帰ってきてね!」とクもいる。』

- 問題用紙と解答用紙を同じ用紙にした工夫
 - いつ：考查時
 - だれに：全校生徒
 - 何をした
 - 問題文や語群と解答欄を同じ用紙にし、近い位置に示しました。
 - 解答欄を分かりやすく示しました。（資料15）

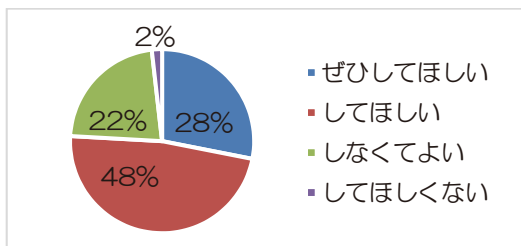
視知覚・書字の困難さに配慮した実践

- いつ：考查時
- だれに：教職員
- 何をした
 - 考查時に生徒が表記する文字について採点許容範囲を定めました。（資料16）

アンケートの結果

■ 生徒に対するアンケート

Q 考查問題の文字を大きくしたり、行間を広げたりして、解答しやすくすることは、これからしてほしいですか。



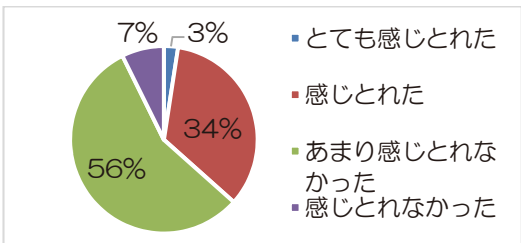
「■ ■」を選んだ理由(選択式、複数回答可)

- 行間が空き、すっきりしていて見やすいから 【48%】
- 一つ一つの文字が見やすいから 【28%】
- 答えを書く場所が分かりやすいから 【22%】
- どの教科も同じ形式で分かりやすいから 【2%】

Ⅰ 実態把握

■ 教職員に対するアンケート

Q 学校で統一したルールに則って考查問題の書式等を工夫したことで、生徒の考查問題への取り組み方が改善されていると感じとれましたか。



「■ ■」を選んだ理由(選択式、複数回答可)

- 解答欄への記入ミスが少なくなった 【35%】
- 問題文の読み間違いや勘違いが少なくなった 【35%】
- 時間内に取り組める問題数が増えた 【22%】
- その他 【8%】

Ⅲ 生徒指導

「■ ■」を選んだ「その他」の理由(自由記述)

- 転記ミスの原因が不注意や短期記憶(※7)の弱さによる場合、問題用紙に解答欄を設けることで、問題内容の理解の程度を評価することができる。今後は、徐々に、検定等に対応できるように指導していこうと思う。

Ⅳ 進路指導

校内で組織的に取り組むために留意したこと

- 年度始めに、考查問題作成時に全教職員で統一する項目について共通理解を図ったこと。(資料17)
- 「考查問題教職員チェックシート」を作成し、考查時の配慮事項が徹底されているかどうか、定期的に(年4回)教員でチェックするようにしたこと。(資料18)

関連する資料

- 資料14 考查問題 一部抜粋
- 資料15 「問題用紙」に解答欄を設けた考查問題見本
- 資料16 採点許容例
- 資料17 考查問題における共通理解事項
- 資料18 考查問題の教職員チェックシート

II

4 特別支援教育の視点を生かした授業改善の実践

目的

特別支援教育の視点を取り入れて授業改善をすすめることは、全ての生徒にとって「分かりやすい授業」につながります。そこで、全教職員が、特別支援教育の共通した視点をもって授業改善を図る取組を行いました。

実践

授業改善を図るための実践

- チェックシートを活用した授業改善の実践
 - いつ：随時
 - だれに：教職員
 - 何をした
 - 特別支援教育について共通した視点をもって授業改善を図るため、チェックシート「わかりやすい授業のために」（写真13）を用いました。
 - 教職員はこのシートの観点をもとに授業を参観し、生徒にとって分かりやすい授業が展開されているかを確認し、自身の授業改善に生かしました。

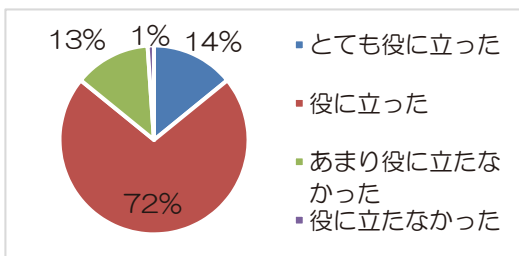
| 項目 | 内 容 | チェック |
|--------|------------------------------------|------|
| プリント | ① プリントは別紙A4統一されているか。 | |
| | ② プリントはゴシック統一されているか。 | |
| | ③ プリント等、視覚・聴覚に配慮されているか。 | |
| | ④ プリントは記名欄が設けられているか。 | |
| | ⑤ 片面印刷が原則、配布しているか。 | |
| | ⑥ フォントの組みみがなされているか。あるいはノドに貼らせているか。 | |
| 板書 | ⑦ 見本文字より大きく書いているか。 | |
| | ⑧ 蛍光色のチョークを使っているか。 | |
| | ⑨ 本時の教科書向きを板書しているか。 | |
| | ⑩ 学習本時の目標を板書しているか。 | |
| | ⑪ カラーは教科書準に従っているか。 | |
| | ⑫ 板書は丁寧に記入されているか。 | |
| 指示の出し方 | ⑬ 電子機器利用・板書がされているか。 | |
| | ⑭ 板書法が工夫されているか。 | |
| | ⑮ 指示の内容を板書しているか。 | |
| | ⑯ 通称・略称・新訳を補足しているか。 | |
| | ⑰ 「はい、やめ」等の指示の明確さ。 | |
| | ⑱ 授業・授業に配慮した指示の出し方を意識しているか。 | |
| 課題 | ⑲ 机の調整が複数回されているか。 | |
| | ⑳ 適当な声かけがなされているか。 | |
| | ㉑ 授業について学習票板に提出日を記入しているか。 | |
| 課題 | ㉒ 課題は記名欄・記付日・通し番号等、紛失への配慮がなされているか。 | |
| | ㉓ 課題は内容等の工夫がされているか。 | |

(写真13)

アンケートの結果

■ 教職員に対するアンケート

Q 「指示の出し方」や「学校で統一したルールに則って板書を工夫する」といった視点で授業改善を行うことは、生徒にとって分かりやすい授業づくりに役立ちましたか。



「■ ■」を選んだ理由(選択式、複数回答可)

- 生徒にとって、授業の内容を理解しやすいようにするための工夫点が理解できた 【52%】
- 生徒にとって、授業に集中しやすい環境や配慮が理解できた 【23%】
- 教職員が担当教科の枠を超えて授業改善することができ、様々な気づきを得られた 【23%】
- その他 【2%】

「■ ■」を選んだ「その他」の理由(自由記述)

- 生徒が、板書が見やすく途中で写すことをあきらめなくなった。
- 全ての生徒にとって分かりやすい授業の基礎(〇〇高等学校版)となっていると感じる。

校内で組織的に取り組むために留意したこと

- 日常的に授業を振り返る内容を全ての教職員が意識できるようにするために、チェックシートを教務手帳に挟んで携行できるように工夫したこと。(工夫点：サイズ・ラミネート加工)
- 「授業チェック強化期間」等のチェック期間を設定し、取組の継続化を図ったこと。

I 実態把握

III 生徒指導

IV 進路指導

Ⅲ章 生徒指導

Ⅲ

1 学校生活を円滑にするための実践

(1) 学習規律や校則を分かりやすくする工夫

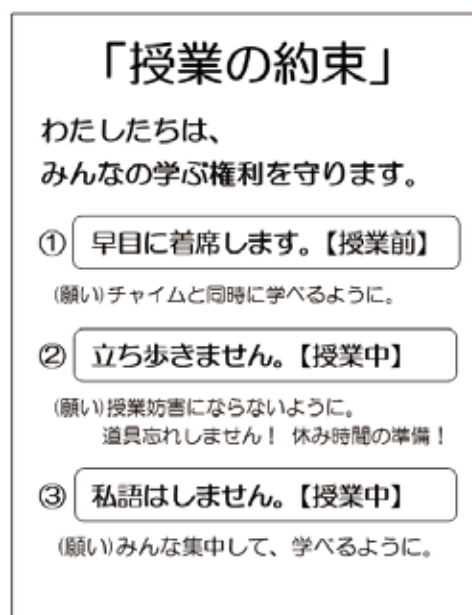
目的

生徒たちの中には、暗黙のルールが理解できない生徒がいたり、ルールを厳格に守ろうとするあまり、ルールの変更に対して混乱したりする生徒がいます。生徒の確かな学びを保障するためには、安心して学校生活を送ることができるようにするための学習規律や校則が、全ての生徒にとって分かりやすいものであることが大切です。そのもととなる学習規律や校則を分かりやすく示す取組を行いました。

実践

学習規律を分かりやすく示す実践

- いつ：学期始めや毎月
- だれに：全校生徒
- 何をした
 - 全ての生徒が確認しやすいように、「授業の約束」(図1)を教室(前方掲示板)に掲示しました。

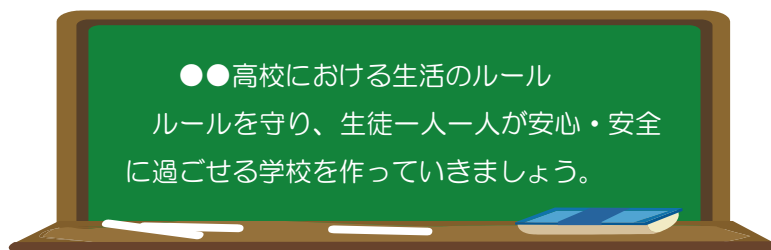


(図1) 「授業の約束」

校則を分かりやすく示す実践1

■ 学校生活のルールを図解した掲示の工夫

- いつ：学期始め
- だれに：全校生徒
- 何をした
 - 「学校における生活のルール」(図2)を教室(後方掲示板)に掲示しました。



①挨拶・返事・言葉遣いを向上させよう。

きつい言葉や傷つくような言葉はやめましょう。

(特に「うざい」「きもい」「死ね」)

心地よく生活していくため、時と場面に応じた適切な挨拶や返事、丁寧な言葉を使いましょう。

②容儀を整えよう。

くずした姿勢では学習内容が入ってきません。服装や頭髪を整え、良い姿勢で学習しましょう。

③人の失敗や間違いを責めない、笑わない。

失敗や間違いは誰にでも起こります。我々は失敗や間違いから様々なことを学び、新しいものを作り出してきました。失敗や間違いを恐れず、様々なことに挑戦しましょう。

④素直な心を言葉に(ありがとう・ごめん・すみませんを言えるように)

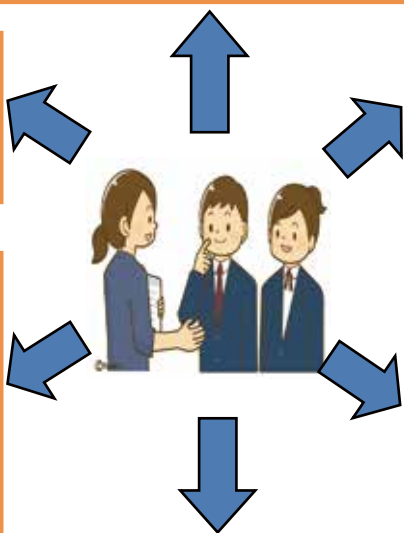
●●高校生の自慢は素直さだと思います。今後も大事にしていきたいと思っています。ありがとう・ごめん・すみせんと素直に言える人になりましょう。

⑥人(友だちや先生)の話をよく聞こう。

下を向いていると話の内容が頭に入りません。相手に気持ちが伝わりません。話をしている人をしっかり見て最後まで聞き、何か一つ学びましょう。

⑤時間を大切にしよう。

10分間で教科書やノート、必要とするものは自分で準備しましょう。またチャイムが鳴る前に入室し着席しましょう。



(図2) 「学校における生活のルール」

I
実態把握

II
学習指導

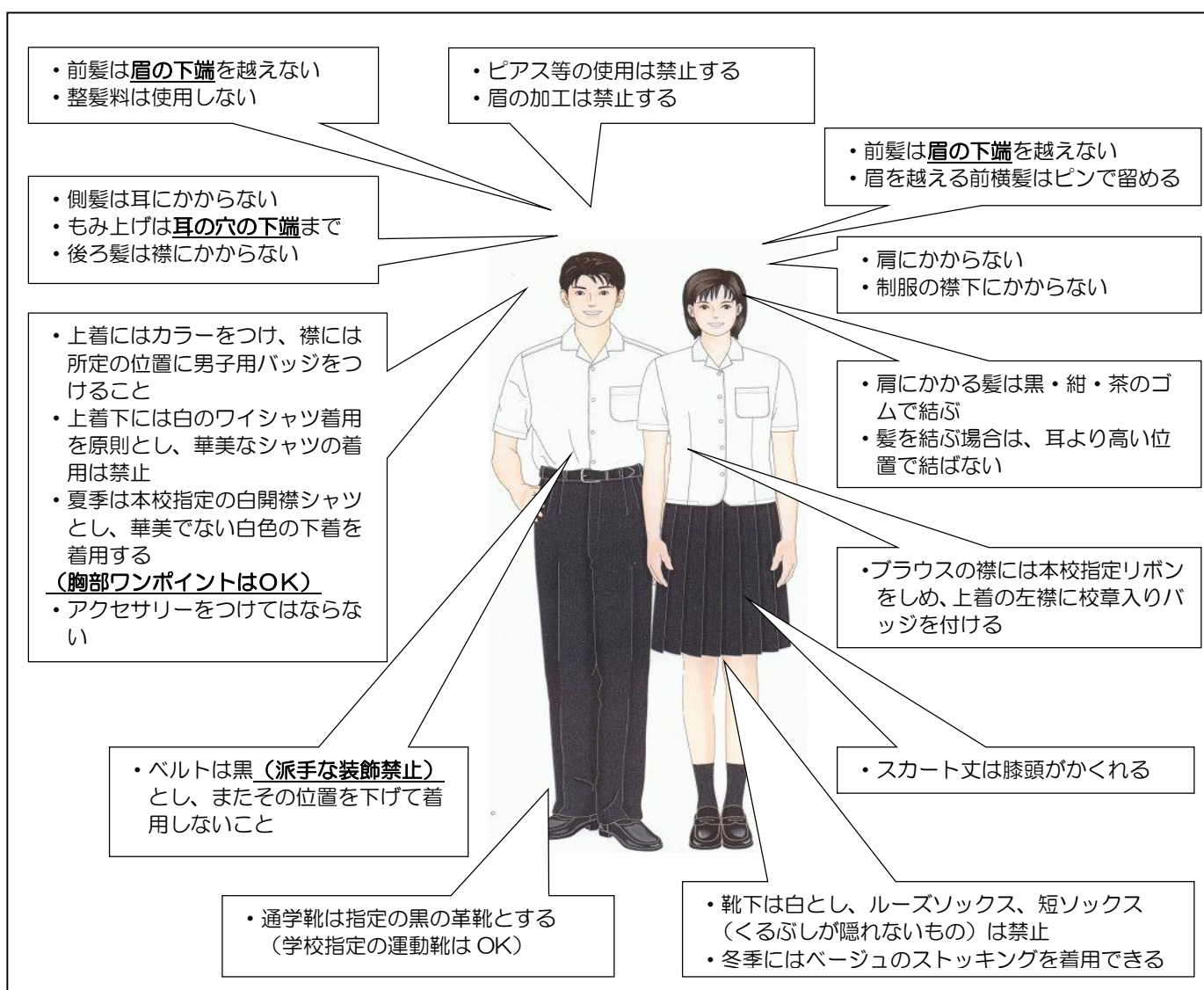
III
生徒指導

IV
進路指導

校則を分かりやすく示す実践2

■ 服装や頭髪のルールを図解した掲示の工夫

- いつ：学期始め、衣替えの時期
- だれに：全校生徒
- 何をした
 - 「服装や頭髪規定」(図3)を教室(後方掲示板)に掲示しました。

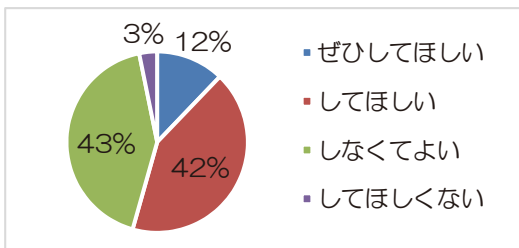


(図3) 「服装や頭髪規定」

アンケートの結果

■ 生徒に対するアンケート

Q 学習のルールや校則を教室や廊下等に掲示することは、これからもしてほしいですか。

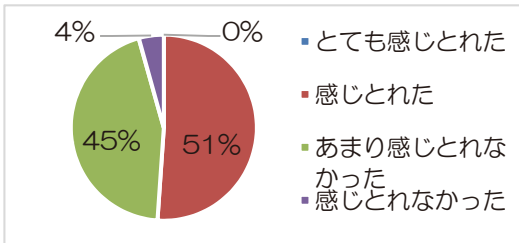


「■ ■」を選んだ理由(選択式、複数回答可)

- どんなルールが分かりやすいから 【32%】
- ルールを忘れたときに確認ができるから 【27%】
- 自分が守れているかどうかチェックできるから 【21%】
- みんながルールを守れるようになって、気持ちの良い生活を送れるから 【19%】
- その他 【1%】

■ 教職員に対するアンケート

Q 校則や学習規律を分かりやすく示す工夫をしたことで、生徒の規範意識や授業態度が改善されていると感じとれましたか。



「■ ■」を選んだ理由(選択式、複数回答可)

- 校則を確認する生徒が増えた 【43%】
- 校則を意識する生徒が増えた 【32%】
- 学習規律を意識する生徒が増えた 【21%】
- その他 【4%】

「■ ■」を選んだ「その他」の理由(自由記述)

- 生徒が「聞いていない」「知らない」と答えることが少なくなった。
- アルバイト規定等、保護者への周知や協力を必要とする校則等を分かりやすく伝えることは必要と感じる。

校内で組織的に取り組むために留意したこと

- 学習規律や校則については、週1回の生徒指導部会等で検討したものを、職員朝会の際に全教職員間で共通理解を図ったこと。
- 全校生徒には、月1回の服装頭髪検査やSHRの際に周知した上で、校則等を分かりやすく表したものを、生徒が目にする所に掲示したこと。

I

実態把握

II

学習指導

III
生徒指導

IV

進路指導

Ⅲ

1 学校生活を円滑にするための実践

(2) 生活環境や学習環境を整えやすくする工夫

目的

生徒たちの中には、教室のロッカーに荷物が雑然と置かれていたり、机や椅子等が整理整頓されていなかったりする環境では、注意が持続できず、学習への集中が困難な生徒がいます。また、連絡掲示板が雑然としていると、どこに注目すればよいのかが分からず、必要な情報が分からない生徒がいます。そこで、このような生徒が過ごしやすい生活環境や学習環境を整える取組を行いました。

実践

生活環境を整えやすくするための実践

- いつ：年度当初
- だれに：全校生徒
- 何をした
 - ごみの分別をしやすくするためにゴミ箱の標示の工夫をしたり（写真14）、掃除用具を整理整頓しやすくするために、掃除用具とロッカーに整理する番号を対応させる標示を工夫したりしました。（写真15）
 - 連絡掲示板を内容ごとに分けをして、「どこに」「何が」掲示されているかが分かりやすいようにしました。（写真16）



(写真14)



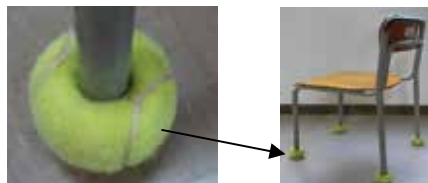
(写真15)



(写真16)

学習環境を整えやすくするための実践

- いつ：年度当初
- だれに：全校生徒
- 何をした



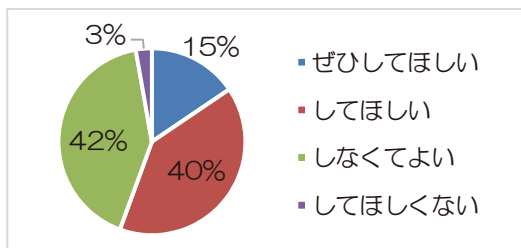
(写真17)

- 学習への集中を持続するために、椅子の全ての足に防音材（テニスボールの活用）を付け、椅子を動かす際の雑音を軽減する工夫を行いました。（写真17）なお、取り付け作業は、教職員と一緒に生徒が行いました。

アンケートの結果

■ 生徒に対するアンケート

Q お知らせの内容ごとに掲示場所をそろえたり、ロッカー等の整理整頓の方法を示したりすることは、これからもしてほしいですか。

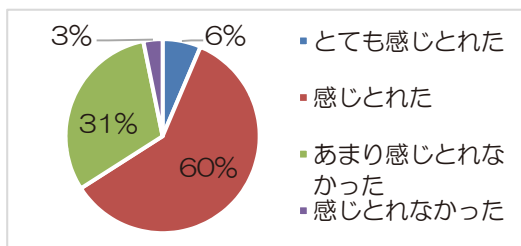


「■ ■」を選んだ理由(選択式、複数回答可)

- 教室がきれいで気持ちがいいから 【43%】
- 黒板が見やすく、授業に集中できるから 【28%】
- 自分で整理整頓ができるから 【27%】
- その他 【2%】

■ 教職員に対するアンケート

Q 教室の環境を整えることで、生徒の授業態度や生活態度が改善されていると感じとれましたか。



「■ ■」を選んだ理由(選択式、複数回答可)

- 自分から進んで整理整頓をする生徒が増えた 【36%】
- 授業に集中する生徒が増えた 【28%】
- 学習道具や生活用品をていねいに扱う生徒が増えた 【19%】
- その他 【17%】

「■ ■」を選んだ「その他」の理由(自由記述)

- 生徒たちが情報を理解しやすくなり、授業に集中する生徒が増えた。
- 連絡漏れが減少したように感じる。

校内で組織的に取り組むために留意したこと

- 学期始めの職員朝会で、特別支援教育コーディネーターが生活環境の整備のポイントについて説明して、共通のルールのもとで取り組めるようにしたこと。
- 環境整備の教職員チェックシート(資料19)を作成し、教職員間でチェックしたこと。

関連する資料

資料19 環境整備の教職員チェックシート

I

実態把握

II

学習指導

III
生徒指導

IV

進路指導

Ⅲ

2 生徒同士の良好な対人関係を育むための実践

目的

生徒たちの中には、自己有用感・自己肯定感が低かったり、他者と関わるのが苦手であったりすることから、他の生徒の良さを認められなかったり、対人トラブルを起こしたりする生徒がいます。そこで、自己肯定感を高め、互いを認め合えるようにするために、年度始めの学級内の関係づくりや学校行事等を通して、他者と友好的な関係が築けるようにするための取組をしました。

実践

自己肯定感を高めるための実践

- いつ：毎週1回実施している読み聞かせの時間
- だれに：全校生徒
- 何をした
 - ① 「教職員が生徒にぜひ読んでほしい物語の一場面」や「心に残るエッセイ」(5分程度で読める量)を全学級の担任が各学級で読み聞かせました。
 - ② 生徒がその物語やエッセイに対して感じたことや考えたことなどを、5行程度で書くように指導しました。
 - ③ 良い感想を書いた生徒が、他の生徒や教職員から賞讃の声を掛けられるようにするために、生徒が書いたものの中から良い感想を教員が数点選択し、全校生徒・教職員に印刷して配付しました。

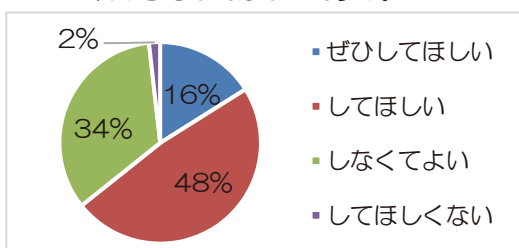
他者を認め、関係を築くための実践

- いつ：LHRや総合的な学習の時間
- だれに：全校生徒
- 何をした
 - ① 年間計画に沿って4月の学級開きのときなどにソーシャルスキルトレーニング(※8)や構成的グループエンカウンター(※9)を実施しました。その中で、自分のことを話し、他の生徒の話を聞くためにすごろくトークをしたり、他の生徒の良いところ探しをしたりしました。
 - ② 終了後、自己評価を行った後、他の生徒と感想を伝え合い、自己理解、他者理解を深めました。

アンケートの結果

■ 生徒に対するアンケート

Q 人との良いかかわり方について学ぶ授業はこれからもしてほしいですか。



「■ ■」を選んだ理由(選択式、複数回答可)

- 友達のことをもっと身近に感じられるようになったから 【34%】
- 学級の雰囲気良くなることにつながるから 【27%】
- 人とのかかわり方が分かったから 【24%】
- 他の人と話す話題がみつきり、話しかけやすくなったから 【15%】

I

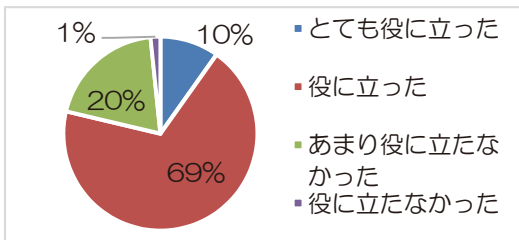
実態把握

II

学習指導

■ 教職員に対するアンケート

Q 人との良好なかかわり方に関する授業や行事は、学級の雰囲気づくりや生徒同士の関係づくりのきっかけとして役に立ちましたか。



「■ ■」を選んだ理由(選択式、複数回答可)

- 友達と声を掛け合ったり挨拶を交わしたりする生徒が増えた 【47%】
- 学級の雰囲気がさらに良くなった 【43%】
- その他 【10%】

「■ ■」を選んだ「その他」の理由(自由記述)

- 生徒同士の関係を把握しやすくなった。
- 生徒同士が協力して行動できるようになってきた。

IV

進路指導

校内で組織的に取り組むために留意したこと

- LHRや総合的な学習の時間の年間計画の中に、他者を認め、良好な関係を築くための実践を実施する時期を設定したこと。
- 教育相談の担当者が、生徒が抱える対人関係等の課題について、学年の教員からの意見を踏まえ、学年のLHRや総合的な学習の時間の指導計画や指導略案(資料20)を作成し、それをもとに学級担任が授業を実践するようにしたこと。

関連する資料

資料20 「社会人としてのマナーやルールを身に付けよう」指導案・ワークシート

III
生徒指導

IV章 進路指導

IV

1 卒業後を見通したコミュニケーション能力の向上や自己理解を深めるための実践

目的

生徒たちの中には、他者とのコミュニケーションがうまくとれない生徒がいます。そこで、卒業後の進学先・就職先で新たな人間関係を築くために、必要なコミュニケーション能力を高める活動を行いました。

実践

コミュニケーション能力を高めるための実践

- いつ：総合的な学習の時間（1年次：年19時間、2年次：年9時間）
- だれに：1年生、2年生
- 何をした
 - 総合的な学習の年間計画に CSE（※10）を位置付けました。授業には、コミュニケーションの技法だけでなく、感情のコントロールや認知（受け止め方）、ストレス軽減に関する学習を系統的に取り入れました。（資料21）
 - インターンシップの事前学習として、CSE を活用した学習を取り入れました。（資料22）
 - 指標（KJQ テスト（※11））を用いて、生徒が自己理解を深めたり、教職員が実施前後の生徒の変容を検証したりしました。

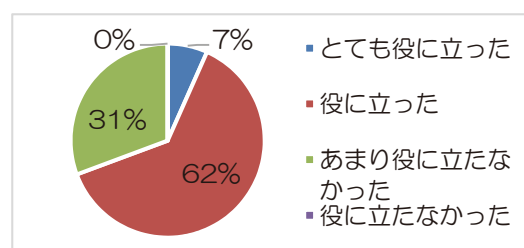
総合的な学習の時間 年間計画（一部）

| | | | | | |
|---|----|--------------------------|---------------|----------------------|------------------------|
| 6 | 4 | 歯科講話 | 職業選択と適性について | 履歴書の書き方② | 小論文指導① |
| | 11 | 科目選択ガイダンス | | SPIIに挑戦① | 小論文指導② |
| | 18 | CSE③認知1 気持ちはどこから来るの？ | 進路について考える② | (第1回定期考査) | |
| | 25 | CSE④ ABC「こころの法則」 | インターンシップ事前学習② | SPIIに挑戦② | 推薦入試について |
| 7 | 2 | CSE⑤認知3 いろいろな考え方をしてみよう | インターンシップ事前学習③ | 面接マナー指導① 履歴書の書き方③ | 面接マナー指導① 自己推薦書の書き方① |
| | 9 | 生徒会役員選挙〔生徒会〕 | | | |
| | 16 | CSE⑥認知4 認知をかえてストレスを軽減しよう | インターンシップ事前学習④ | 面接マナー指導② 履歴書の書き方④ | 面接マナー指導② 自己推薦書の書き方② |
| 9 | 3 | 体育大会準備 | 体育大会準備 | 模擬面接① 作文の書き方① | 模擬面接① |
| | 10 | CSE⑦認知5 いろいろな心を使ってみよう | インターンシップ事後研修 | 模擬面接② 作文の書き方② | 模擬面接② |
| | 17 | CSE⑧ 第2回KJQテスト | CSE 第2回KJQテスト | CSE 第2回KJQテスト | |

アンケートの結果

■ 教職員に対するアンケート

Q インターンシップの前にコミュニケーションについての学習を設定したことや、インターンシップの会社側からの評価を生徒の自己理解のために活用したことで、生徒の受け答えの仕方や生徒の就労や進学への意識の向上に役立ちましたか。



「■ ■」を選んだ理由(選択式、複数回答可)

- ▶ 適切な言葉や表現で教職員とやりとりができるようになった【35%】
- ▶ 身に付けたスキルを日常的に使おうとする姿が見られるようになった【35%】
- ▶ 言葉遣いが良くなった【17%】
- ▶ その他【13%】

「■ ■」を選んだ「その他」の理由(自由記述)

- ▶ 生徒が言葉遣いを意識するようになった。
- ▶ 最低限、職場トラブルをなくしたいと思うが、大きなトラブルもなかったとすれば、それなりに効果もあったのではないかと思う。
- ▶ 生徒が就労に対して自信をもつようになってきた。

校内で組織的に取り組むために留意したこと

- ▶ 実施学年を絞り、事前の打合せやコミュニケーションの技法、感情のコントロール等に関する指導内容の検討会を実施したこと。
- ▶ 職員会議等を活用してコミュニケーション能力を高めたり、自己理解を深めたりする学習の必要性を教職員間で共通理解し、実施後は、その効果や課題について意見を集約して授業改善を図ったこと。
- ▶ 指導の効果や生徒の変容について教師間で情報を共有するために、変容を測る指標やアンケートを行ったこと。

関連する資料

資料2-1 「総合的な学習の時間」 年間計画

資料2-2 「インターンシップ事前学習」授業展開例・ワークシート

I

実態把握

II

学習指導

III

生徒指導

IV

進路指導

IV

2 進路支援に向けた実践

目的

支援が必要な生徒への適切な進路支援を進めるためには、どのような大学や関係機関が、どのような支援やサービスを行っているのかを明らかにし、その情報を校内で共有することが大切です。これらの情報をもとに、生徒が自分に合った進路先を選択したり、卒業後の生活に見通しをもったりする取組を行いました。ここでは、就労支援の実践を紹介します。

実践

関係機関の情報や校内での支援の流れを明らかにするための実践

- いつ：校内研修会等
- だれに：教職員
- 何をした
 - 校内研修会において、障害者手帳（※12）の取得や就労に関する研修会（資料23）を実施し、教職員間の情報の共有を図りました。
 - 各関係機関の連絡先や支援内容を示した就労支援マップ（資料24）を作成しました。
 - 支援が必要な生徒への就労支援フローチャート（資料25）を作成しました。

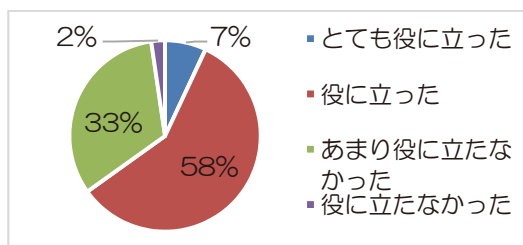
就労につなげるための実践

- いつ：精神障害者保健福祉手帳（※13）取得後
- だれに：アスペルガー症候群（※14）の診断を受けた生徒
- 何をした：関係機関と連携を図りながら、就労継続支援A型事業所への就職につなげました。取組の概要を以下に示します。
 - ① 本生徒は就労継続支援事業所への就労を希望していましたが、特性を理解してもらえる企業への障害者枠での就職も視野に入れ、合同企業面接会へ参加しました。（8月）
 - ② 障害者雇用枠での一般企業への就職活動がスムーズに進まなかったため、地域の特別支援学校に相談したり、職業訓練施設等の情報収集を行ったりしました。（9月）
 - ③ 本生徒が自分の適性を再確認するために、ハローワークで適性検査を受けました。（10～11月）
 - ④ 就労継続支援A型事業所への就労を検討するために、就労継続支援A型事業所に関する情報収集を行いました。（1～3月）
 - ⑤ 就労継続支援A型事業所への就職が決まりました。（1～3月）

アンケートの結果

■ 教職員に対するアンケート

Q 就労支援について様々な関係機関の情報を整理した「就労支援マップ」や「障害者手帳」「障害者雇用」に関する情報を整理した資料は、進路指導に役に立ちましたか。



「■ ■」を選んだ理由(選択式、複数回答可)

- 就労支援をどのように進めればよいのか見通しが持ちやすくなった【58%】
- どのような関係機関と連携を図れば良いのか見通しを持ちやすくなった【39%】
- その他【3%】

「■ ■」を選んだ「その他」の理由(自由記述)

- 今まで支援が必要な生徒の「就労支援」のイメージがわかかなかったが、様々な専門機関の内容を知り、支援の幅が広がった。
- 3年間を通じた就労支援がイメージできるようになった。
- 障害者手帳の取得・申請についての理解が深まり、担任として見通しが持てるようになった。
- 支援が必要な生徒に対する「担任・進路指導部・ハローワーク間の連携」ができるようになった。

校内で組織的に取り組むために留意したこと

- 障害者手帳や就労に関する情報収集をし、それをもとに就労支援マップ等の資料を作成したこと。
- 全教職員が3年間を見通して就労支援ができるようにするために、就労支援のフローチャートを作成したこと。
- 作成した資料を用いて校内研修会を実施し、情報を共有したこと。

関連する資料

資料23 障害者手帳に関する校内研修資料

資料24 就労支援マップ

資料25 支援が必要な生徒への「就労支援」フローチャート

I

実態把握

II

学習指導

III

生徒指導

IV

進路指導

あとがき

平成24年7月に中央教育審議会初等中等教育分科会から報告された「インクルーシブ教育システム構築のための特別支援教育の推進（報告）」には、次のような一文が示されています。

インクルーシブ教育システムにおいては、「基本的な方向性としては、障害のある子どもと障害のない子どもができるだけ同じ場で学ぶべきである。その場合には、それぞれの子どもが、授業内容が分かり学習活動に参加している実感・達成感を持ちながら、充実した時間を過ごしつつ、生きる力を身に付けているかどうか。これが最も本質的な視点であり、そのための環境整備が必要である。」との報告がありました。

本ガイドブックは、平成24年度から3年間にわたり実施された、高等学校発達障害等生徒支援推進事業の実践研究校の取組をもとに編集いたしました。

いずれの学校の取組も、先の本質的な視点に立ち、それを実践された大変貴重な取組です。また、これらの取組は、発達障害等の障害のある生徒のためだけのものではなく、全ての生徒にとって、授業内容が分かり学習活動に参加している実感や達成感を持ち、安心して学校生活を送れるようにすることを目的とした、ユニバーサルデザイン（※15）の考え方を基盤としたものです。これらのことを踏まえたときに、本ガイドブックに示す取組は特定の学校だけが取り組むことではなく、全ての高等学校で取り組んでいただきたい内容だといえます。

各高等学校においては、まず、本ガイドブックの内容の中のできることから取り入れ、その取組を学年全員あるいは学校全体へと広げ、学校の標準的な取組として組織的に取り組んでほしいと思います。

これらの取組を着実に推し進めていくことが、全ての高等学校における学力向上の一助となると思います。

最後に、本ガイドブックを編集するに当たり多大な御協力をいただいた、研究指定校の校長先生をはじめとする全ての先生方に心からお礼を申し上げます。

用語解説

(※1) 認知特性

人が見たり、聞いたり、触ったり、運動をしたりするときに感じる様々な刺激や感覚を受容し、高次な脳の働きにより外界の事象を把握することを「認知」といいます。認知機能は、外界の情報をどのように取り込み、処理しているかにかかわる働きですが、その働きに、その人特有の発達的特徴が反映していることを「認知特性」といいます。

発達障害のある子どもは認知特性のアンバランスが大きく、学習面や対人面に支障を来してしまうことが多いといわれています。

(※2) 個別の指導計画

各学校において、障害のある子ども一人一人の障害の状態や教育的ニーズに応じたきめ細やかな指導を行うために、学校の教育課程などに基づき、子ども一人一人の指導目標や指導内容・方法などを盛り込んだ指導計画のことで、現在、特別支援学校においては、在籍する全ての子どもへの作成が義務付けられていますが、小学校、中学校、高等学校においては、必要に応じて作成することになっています。

(※3) 個別の教育支援計画

乳幼児期から学校卒業までの長期的な視点に立って、一貫した支援を行うために、子ども一人一人の障害などに応じて作成する長期的な（支援）計画のことで、各学校が保護者をはじめ、医療、福祉、労働等の関係機関と連携しながら作成します。現在、特別支援学校においては、在籍する全ての子どもへの作成が義務付けられていますが、小学校、中学校、高等学校においては、必要に応じて作成することになっています。

(※4) 視知覚

目で見て対象となるものの性質・形態・関係を知る力のことです。

- ・形や色を見分ける
- ・空間の位置や方向を知る
- ・見えるものの「全体」と「部分」との関係を知り、関係付ける
- ・見るべきものを選択する 等

(※5) 選択的注意

多くの刺激や情報の中から重要な情報に注意を向けることです。

(※6) 聴知覚

音や声を聞いて対象となるものの性質・形態・関係を知る力のことです。

- ・音や声を聞き分ける
- ・音や声のする方向、位置を知る
- ・注意を向けるべき音や声を選択する

(※7) 短期記憶

短期記憶には、言語的短期記憶と視空間的短期記憶があります。言語的短期記憶は、言語の音声パターンを一時的に保持する働きをします。視覚的短期記憶は、対象の形、方向、その他の視覚的特徴、動作のパターンを一時的に保持する働きをします。

(※8) ソーシャルスキルトレーニング

ソーシャルスキルとは、人が社会生活を営むうえで必要な技能の総称で、食事・排泄等の基本的な能力、社会の信頼や他者の協力を得るために必要なコミュニケーションの能力等多岐にわたります。ソーシャルスキルトレーニングとは、これらの技能に関する行動等の変容や修正を図ることを目的として実施する訓練のことです。

(※9) 構成的グループエンカウンター

「エンカウンター」とは「出会う」という意味です。グループ体験を通しながら他者に出会い、自分に出会います。人間関係作りや相互理解、協力して問題解決する力などが育成されます。集団の持つプラスの力を最大限に引き出す方法といえます。学級作りや保護者会などに活用できます。

(※10) CSE

「コミュニケーションスキルアップのためのエクササイズ」の略称です（名称は実践研究校独自のもの）。東京都立稔ヶ丘高等学校の実践を参考にして、実践研究校が自校の実情に合わせて設定・実施しています。

人間関係スキルの向上を図る取組として、生徒が直面する問題に対していろいろな考え方や振る舞い方を学ぶ学習や、ロールプレイを通して対応の仕方を学ぶ学習などがあります。

(※11) KJQテスト

早稲田大学の菅野純教授が開発した、自分の「こころの土台」（心の状態）を知るためのアンケートです。57の質問項目からなっています。「こころの土台」とは、「こころのエネルギー」と「社会生活の技術」からなり、やる気や意欲、こころの安定、社会の中で生き抜く力のもとになるものです。

(※12) 障害者手帳

身体障害者手帳、療育手帳、精神障害者保健福祉手帳といった、障害を有する人に対して発行される手帳の総称です。各種障害者手帳を所持し、提示することにより、公共機関などで、料金の優遇などを受けることができます。所有している障害者手帳の種別や等級、各地方自治体により、受けられるサービスに差があります。

(※13) 精神障害者保健福祉手帳

1995年(平成7年)に改正された精神保健及び精神障害者福祉に関する法律(精神保健福祉法)に規定された精神障害者に対する手帳制度です。一定の精神障害の状態である人が、様々な支援施策を利用するために必要な手帳です。精神障害のある人の自立と社会参加の促進を図ることを目的としています。発達障害者に対しても交付される場合があります。

(※14) アスペルガー症候群

アスペルガー症候群とは、知的発達の遅れを伴わず、かつ、自閉症の特徴のうち言葉の遅れを伴わないものを指します。

なお、高機能自閉症やアスペルガー症候群は、自閉症スペクトラム症候群に分類されるものです。

(※15) ユニバーサルデザイン

ユニバーサルデザインとは、全ての人が利用しやすく、暮らしやすいように、「物づくり」や「町づくり」などを行うという考え方です。この考え方を授業に取り入れるとすれば、クラスの中の全ての子どもたちにとって、「分かりやすい、学びやすい授業」を行うということになります。